

昔は水の確保が大変だった!

# 絵地図で見る 農地と水の関係!

今みたいに機械のない時代、人は土地を広げる干拓や貴重な水の確保をどうやっておこなっていたのだろう? 昔の人は、ほとんどを手作業でおこなっていたようだ! そこには、いろんな知恵が詰まっているのがわかる。今でも、近くに昔のクラクリが活かされているかもしれないよ。キミの町を探検して、みんなで見つけてみよう!

## 農地を広げるために、干潟をヘンシン!! 佐賀平野の「干拓」

昔の人たちは、有明海の干潟を干拓して農地を広げていきました。干拓とは、海の中に堤防をつくり、外の水が入ってこないようにして陸地にすることです。平安期から現在まで長い年月をかけて干拓を繰り返すことで、たくさんの田畑とクリークをつくり、干潟は豊かな農地に生まれ変わりました。干拓地を表す、「干拓(からみ)」という地名が残る町もあります。

干拓地はこうやってできた!



干拓工事の様子

## マジック!? 自然の力を利用した 有明海の知恵「アオ取水」

アオとは、淡水(塩分を含まない水)のこと。干満の差が大きい有明海では、満潮時に海水が川をさかのぼります。この時、海水よりも軽い川の水(淡水)は上へ、海水は下へと分かれます。この自然原理を生かして、上にある淡水だけをクリークに取り入れるのがアオ取水です。

アオ取水はこんなシステムだ!



アオ取水の様子

## 少ない水を繰り返し使う 干拓地の「クリーク」

有明海に向けて農地を広げた干拓地。佐賀平野では農業用の水が不足するため、少ない水をためて繰り返し使うクリーク(水路)がたくさんつくられました。また、使うクリーク(水路)がたくさんつくられました。また、大雨のときは一時的に水をためて洪水を防ぐ役割もあります。昔は、飲み水や洗いの水など、生活用水にもクリークの水が使われていました。網の目のように広がるクリークは、佐賀平野独特の風景といえます。



クリーク(佐賀市兵庫町)

## 農業用水の確保のための 人工の「ため池」

山間部など河川が少ない地域では、農業で使う水が不足するため、雨が少ない時期でも安心して水が使えるように、人々が協力して、水をためる「ため池」をつくりました。貴重な水を平等に分けるために、ため池の水量を調節する「水番さん」という人もいました。昔は、作物をつくるのと同じくらい、ため池や水路をつくることも大切な仕事でした。

知ろう! 学ぼう! 近所探検隊

家や近所のおじいちゃん、おばあちゃんに昔の農業の大変さを聞いてレポートにまとめてみよう。そして発表しよう!

案内役: トン坊



昔

江戸時代から昭和初期頃の様子

- 平安初期の海岸線 西暦(せいねい)800年ごろ
- 戦国時代末期の海岸線 西暦(せいねい)1600年ごろ
- 明治初期の海岸線 西暦(せいねい)1870年ごろ

水路が整備されていない時代、水は自然まかせ。人々は水の確保にとっても苦労していました。「その苦労を少しでも無くしたい...」と一人の男が立ち上がったのです。その人とは...?!



みなもちゃん

かん太君

クリークの水を踏車でたんぼへ



水車を使って田んぼに水をためる様子